

農地利用集積による大型施設野菜団地の形成【宮城県遠田郡美里町、涌谷町】

とおだぐん みさとまち わくやちよう

体制・人材
づくり

栽培作物
・方法

出荷

販売

【工夫のポイント】

- 水稲+施設野菜の複合経営を行っていた農家7名が、基盤整備を契機に**生産組合(アスファ生産組合)をH10年に設立**。
- 基盤整備によりほ場の大区画化、汎用化を行うとともに、農地を集積し、大型野菜団地(4.27ha)を造成。
- 将来は、各自が1戸1法人として自立し、地域農業を担う農業経営体を目指す。

基盤

農地の大区画化や汎用化による 労力の軽減と高収益作物の拡大

区画整理や暗渠排水等の整備により、生産コストの低減を図るとともに、畑作物の栽培等の水田の高度利用や高収益作物の拡大を実現。



1ha区画に整備されたほ場



高収益作物(小ねぎ)の栽培

基盤整備
(H9年～H19年)

【整備前】

ほ場は10a区画で土水路であるために維持管理に多大な労力を要していた。
また、地下水位の高い区域もあり、ほ場の汎用化が困難であるとともに、農道の幅員が狭く大型機械の導入も困難な状況。



整備前のほ場



整備前の土水路

【取組地域の概要】

- 位置 とおだぐん みさとまち わくやちよう
宮城県遠田郡美里町、涌谷町



できがわうがん
出来川右岸地区

- 主要作物
・ 水稲、小ねぎ、
ほうれんそう

○ 主な支援施策

- ・ 県営経営体育成基盤整備事業(H9～H19)
- ・ みやぎの野菜産地拡大整備事業【県単】(H10～11)
- ・ 生産調整支援事業【県単】(H10～11)
- ・ 多面的機能支払交付金(H19～)

生産現場

高収益作物の栽培と作業コストの縮減

- 施設野菜と競合する水稲栽培作業の共同化を図り、省力化、低コスト化を図る。
- 水稲生産の余剰時間を活用し、施設野菜(小ねぎ、ほうれんそう)の栽培を拡大。H11年からパイプハウスを設立し、現在では150棟になっている。



園芸団地(航空写真)

加工・流通

ブランドの確立



ブランドパッケージ

- 小ねぎは「仙台小ねぎ」というブランドで秋田、福島、京浜等へ出荷。
- 部会で共同の加工調整施設を整備し、生産拡大を後押し。

担い手

地域後継者の育成及び確保



若手生産者の検討会

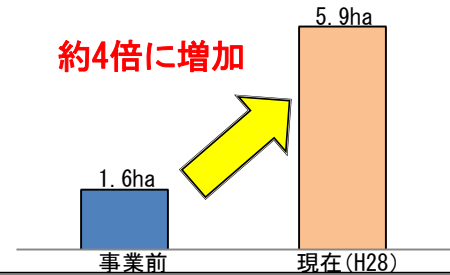
- 農業を志す新規就農者や新規参入者の研修等を受け入れ、地域農業者の確保育成を図る。
- 小ねぎ生産を地域雇用創出の場とし、出荷調整等の作業に地域の女性を中心に雇用。

生産コスト削減や高収益作物の拡大 による生産組合の所得の確保

- 経営の柱を水稲から施設野菜に転換し、所得向上を図るため、機械、施設の共同購入・利用によるコスト低減に努める。

<施設野菜の栽培面積の推移>

約4倍に増加



(有)氏家農場

- 構成員が設立(H18)した法人は、平成27年度では年間販売額約1億を越え、県内を代表する園芸法人に成長した。